

2 学年講演会 報告

◇期 日：5 月 24 日(火)13:30～15:35

◇場 所：至誠ホール

◇参加者：2 学年 普通科文系・人文科学科 107 名

「親の離婚と子供：心理学の立場からの現状と課題」というテーマで富山大学学術研究部人文科学系専任講師の直原康光先生にご講演いただきました。

直原先生は、もともと大学で法学を専攻しておられ、卒業後は家庭裁判所調査官として働いておられました。その後筑波大学の社会人大学院で、心理学を学ばれ、博士号を取得し、現在は研究者として研究を続けておられます。

講演を聴く前は、家庭裁判所調査官という職業があるということも知らなかったのですが、親が離婚し、親権などで揉めている、つらい状況下にいる子供の心のサポートや、最適解への誘導をおこなう大切なお仕事であるということが分かりました。日本では、年間約 20 万人の子供が親の離婚を経験しています。親の離婚により子供はどんな影響を受けるのか。心理学の手法によって、父母や周囲にどんな配慮ができるのかという分析ができ、現場に活かされていくということが分かりました。法律や心理学は、高校では触れられない学問領域なので、まだまだ学問の世界は広いということを再確認することができました。

先生からは、英語や数学をたくさん勉強しておくほうがいいというアドバイスや、高校生活では、様々なことを経験してみてくださいという激励の言葉もいただきました。実際に研究者として働いておられる方からの言葉には重みを感じられました。大学に行っても、学んだことが社会に生かせるような学びができるよう、高校生活を充実させていきたいと思いました。

